

業界展望を考える若手技術者の会メンバーがWithコロナ時代の新たな働き方検討として『立科 WORKTRIP』ワーケーションを実体験しました。

(一社)建設コンサルタンツ協会業界展望を考える若手技術者の会では、(公社)土木学会建設マネジメント委員会パンデミック対応検討特別小委員会と連携して、2020年11月25日(水)～26日(木)にかけて、立科町が企画する「立科 WORKTRIP」にモニター参加しました。その概要について、以下の通り報告します。

1. 目的

ニューノーマルの働き方の一つとして注目を浴びているワーケーションは、リフレッシュした環境下で働くことによる生産性・創造性の向上はもちろんのこと、ウェルビーイング、ハピネスという幸せに働くことにもつながるものである。さらに、ワーケーションの可能性を俯瞰的に捉えると、過密と過疎の同時解消、地域活性化など国土構造、地域へ与えるインパクトも期待される。

しかし、ワーケーション導入はまだまだ黎明期であり、特に建設業界においてはその意義や期待される効果、具体的な導入方法について十分に理解されていないのが現状である。

そうした中、建設業界で働く我々自身が、実体験を通じてワーケーションという新たな働き方の価値を見出し、それを建設業界全体に広く発信していくことを目的に参加した。

2. 立科 WORK TRIP の概要

- ・立科町では、一般社団法人信州たてしな観光協会と連携し、ペンションやプチホテルがそのままワークスペースとなる「立科 WORK TRIP」を提案している。
- ・「立科 WORK TRIP」でのワーケーション体験をした上で、今後の導入を検討した企業や、プロジェクトチームの応募をしている。
- ・今回は、そのモニターに応募し当選したことを受けて参加した。

*) 立科 WORKTRIP サイト <https://www.work-trip.com/>

3. 参加概要

項目	内容
日付	2020年11月25日(水)～26日(木) 1泊2日
場所	長野県北佐久郡立科町 宿泊場所：アンビエント蓼科
参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・伊藤昌明 (株式会社オリエンタルコンサルタンツ) ・郷田智章 (株式会社長大) ・青柳竜二 (株式会社長大) ・山下悠輝 (株式会社長大)

4. ワークーションの具体内容

建設業界で働く様々なシーンをワークーションで実体験する。

- ・建設業界で働くシーンとして挙げられる、個人ワークや建設現場とのやりとり（調査・工事・点検等）、社内の打合せ、所属委員会メンバーとの会議、アイデアソン（メンバー同士の討議）などについて、今回のワークーションを通して実体験する。
- ・各シーンでの実体験での感想や課題、効果など、ワークーションの価値を見出す。

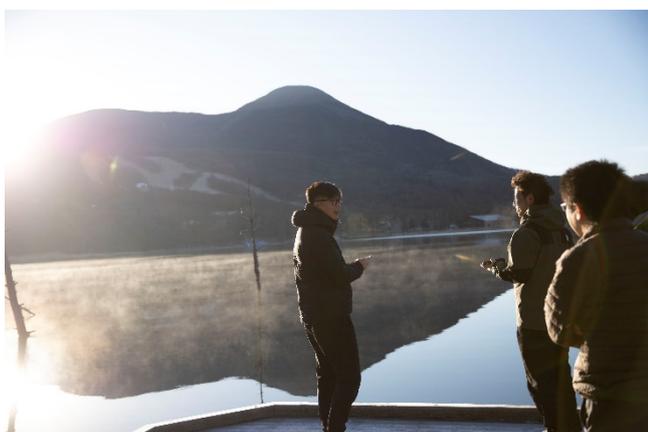
11月25日（水）

～11:30	佐久平駅集合
11:30～12:30	レンタカーで宿泊所へ移動
12:30～13:00	昼食（道の駅）
13:00～14:00	チェックイン＋準備＋休憩
14:00～18:00	体験①：（個人ワーク＋社内打合せ＋建設現場との遠隔作業＋委員会会議＋アイデアソン＋家族アクティビティ等）
18:00～19:00	各自温泉へ
19:00～	夕食（その後の会合は作業部屋で）

11月26日（木）

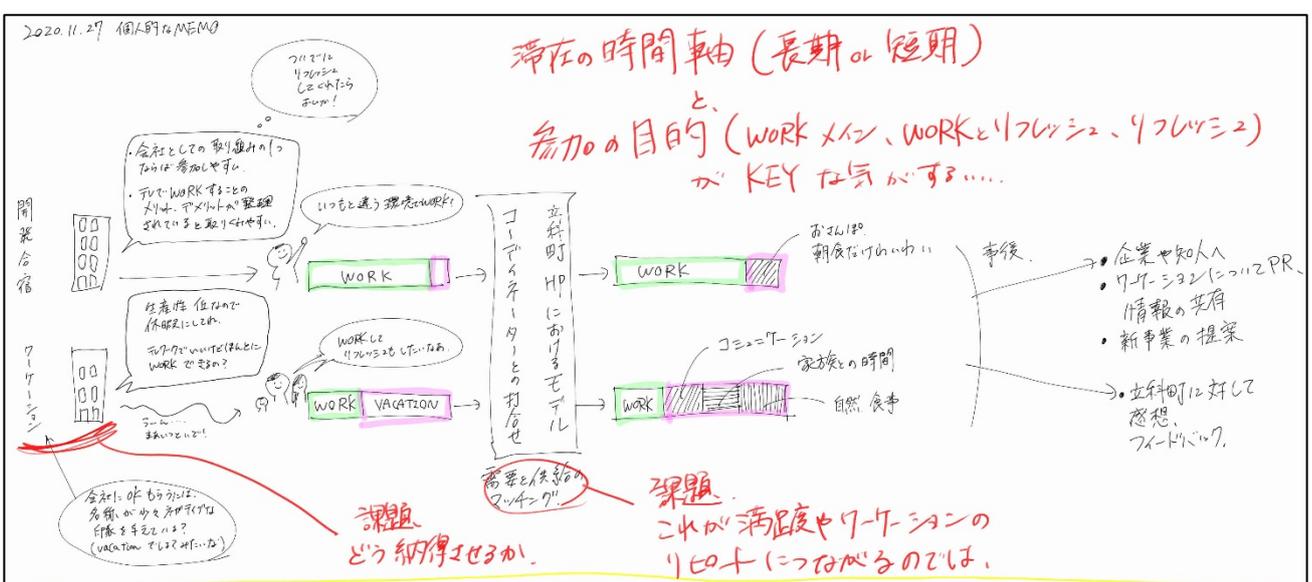
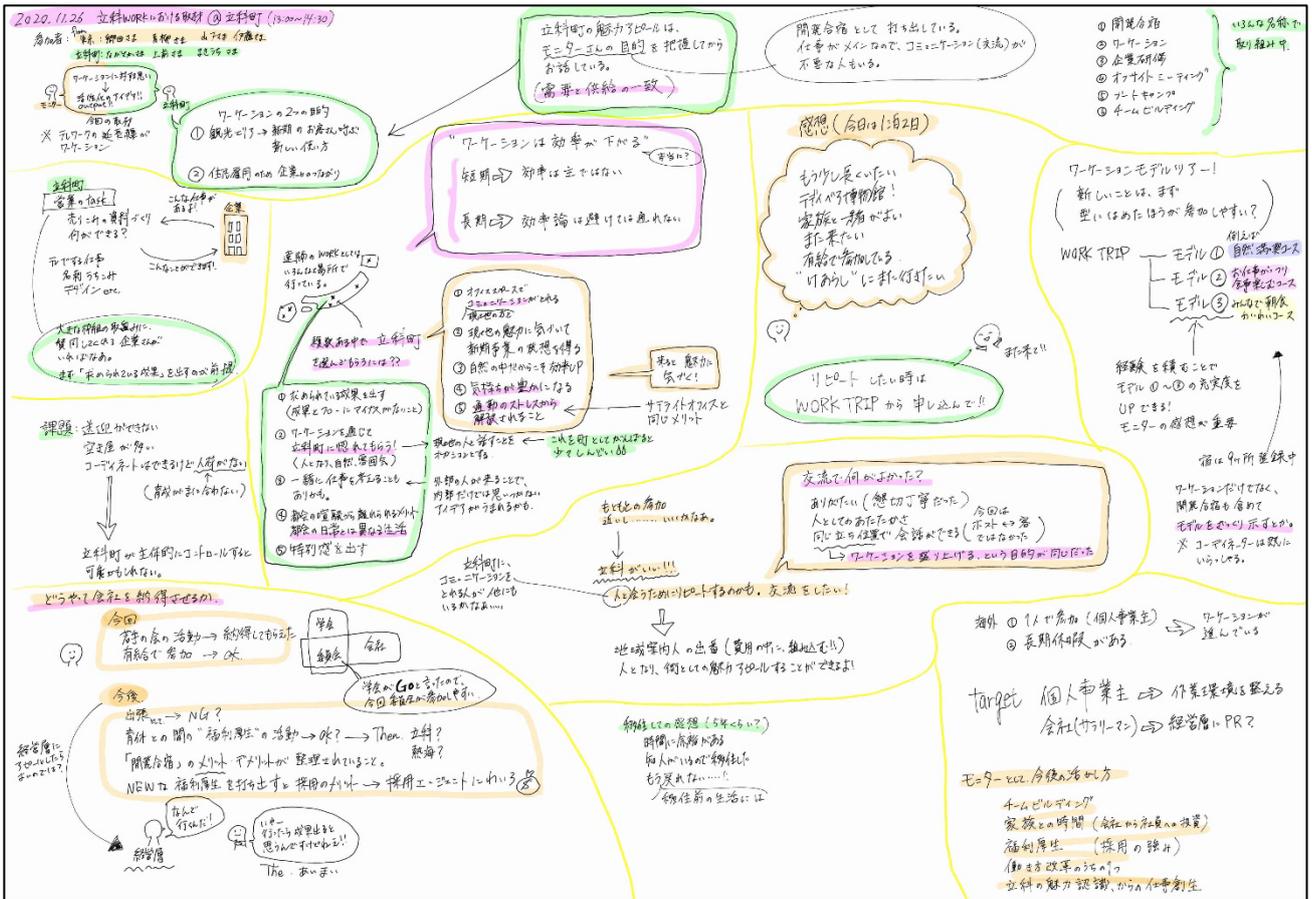
07:00～07:30	散歩
07:30～09:00	朝食、準備
09:00～11:00	体験②：（参加メンバーでの合同ミーティング）
11:00～11:30	レンタカーで移動
11:30～12:00	準備・セッティング
12:00～13:00	昼食（仕出し弁当）
13:00～15:00	逆取材：立科町企画課企画振興係（in ふるさと交流館） 「立科町ワークーションをアップデートせよ！」 立科町ワークーションをさらに活性化、アップデートするために何が必要なのかについて、受入側（立科町）とモニター側の立場でアイデアを出し合い、ディスカッションすることで具体方法を探る。
15:00～15:30	レンタカーで駅へ移動
16:00～	帰宅

5. ワークーション体験の様子

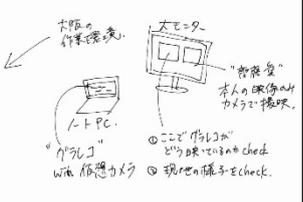
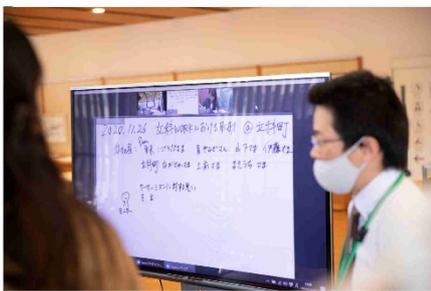


6. グラフィックレコーダー

・立科町ワーケーションの活性化に関して議論した記録は以下の通り。



2020.11.26 「立科町 ↔ 大阪」で 掲載。取材 with HP の様子 (片島様からの写真を拝借)



7. 参加メンバーの体験談

- ・ 女神湖畔でメンバーと日の出を見る。大自然に囲まれ心豊かな気持ちで朝を迎えると、一日分の働くことへのエネルギーを充たすことができる。
- ・ 議論に煮詰まったら目の前の湖畔で、みんなで散歩しながらブレスト。心身ともにリフレッシュしながらの議論ははかどった。
- ・ ワークেশョンは、バーチャルでなくリアルで会う特別感を味わえ、メンバーとの一体感を醸成できる。開発合宿やチームビルディング研修とは親和性が高いと感じた。
- ・ 個々のタスク自体の効率が上がったかと言われると、移動も含めると1泊2日では短すぎて、その効果は感じられなかった。
- ・ 会社でワークেশョンの導入を検討するならば、移動・宿泊は出張扱いでよいのか、家族同伴のケースだと有給休暇扱いなのか、福利厚生の一環とみなされるのかなど、現行制度に当てはめるには課題が多そう。どんな目的で導入するのか、きめ細かな制度設計が必要になる。
- ・ ワークেশョンの醍醐味は、生産性向上よりもウェルビーイングな働き方ができる点にあると肌感覚で感じた。ワークেশョンという新たな働き方が選択肢として増えることは、社員にとっても、求職者にとってもメリットは大きいので各社で導入が進んでほしい。

8. 立科 WORKTRIP の紹介動画

今回参加したモニター体験について、動画制作いただいたものは以下の通り。

<https://youtu.be/h4xVUJZMvUY>



【問い合わせ窓口】

(株) オリエンタルコンサルタンツ (担当：伊藤)

E-mail : itoh@oriconsul.com

Tel : 03-6311-7551